

(参考2) 個別指導自主点検表③－2 検査・画像診断 (主な項目のみ抜粋) (案)

(1) 医学的に必要性が乏しい事例はないか

- ①結果が治療に反映されていない事例
 - 1) ABO 血液型・Rh(D)血液型は輸血の可能性の全くない患者に対して実施していないか
 - 2) 常用負荷試験は既に糖尿病と確定診断した患者に実施していないか
 - 3) 画像診断 (単純X線・CT・MRI 等) について医学的に必要性がないものについて分割して実施した事例はないか
- ②段階を踏んでいない事例はないか
 - 1) HbA1c をスクリーニング目的に実施している事例はないか
 - 2) HIV-1、2 抗体価測定を画的、スクリーニング的に実施している事例はないか
- ③重複とみなされる事例はないか
 - 1) ABO 血液型・Rh(D)血液型を同一患者に2回以上実施している事例はないか
 - 2) CRP と赤沈を炎症反応チェックのために画的に併施している事例はないか
 - 3) 画像診断について一連の撮影にもかかわらず、2回目の診断料、撮影料を算定している事例はないか
 - 4) 他医療機関で撮影されたものの診断が記載されているか
- ④必要以上に実施回数の多い事例はないか
 - 1) 検査などは、個々の患者の状況に応じて必要な項目を選択し、必要最小限の回数で実施しているか
 - 2) セット検査や前回の検査オーダーのコピーで指示しているため、不必要な検査項目まで繰り返し実施している事例はないか

(2) 健康診断として実施した事例はないか

症状等のない患者の希望に応じて実施した腫瘍マーカー事例はないか

(3) 必要性の記載が乏しい事例はないか

- ①診療録にその必要性の記載がない腫瘍マーカー、超音波検査、心電図検査、CRP 定性、グルコースなどの事例はないか
- ②適応傷病名がない患者に実施したビタミン B₁₂、グロブリンクラス別ウイルス抗体価、アミラーゼ・アイソザイム、SCC 抗原などの事例はないか
- ③「C型肝炎」が確定している患者に対する免疫学的検査 (HCV 抗体価) 事例はないか
- ④必要性がなく頻回に繰り返された血液学的検査 (末梢血液像)、HbA1c、グルコースなどの事例はないか
- ⑤「神経因性膀胱」および「過活動膀胱」の患者に対して実施した超音波検査 (断層撮影法 胸腹部) 事例はないか
- ⑥「B型肝炎の疑い」と「C型肝炎の疑い」で実施した肝炎ウイルス関連検査事例はないか
- ⑦酸素吸入のない「呼吸不全の疑い」の患者に対して実施した経皮的動脈血酸素飽和度測定検査事例はないか

(4) その他不適切に実施した事例はないか

- ①尿沈渣 (鏡検法) (フローサイトメトリー法) を尿中一般物質定性半定量検査もしくは尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められた場合、または診察の結果から実施の必要があると考えられる場合ではないにもかかわらず実施している事例はないか
- ②腫瘍マーカー検査は診察および他の検査・画像診断等の結果から悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者以外の者に対して実施している事例はないか
- ③インフルエンザウイルス抗原定性を発症後 48 時間経過後に実施したものを算定している事例はないか
- ④呼吸心拍監視は診療録に観察した呼吸曲線、心電曲線、心拍数のそれぞれの観察結

果の要点の記載がないものに算定している事例はないか

⑤ 呼吸心拍監視は重篤な心機能障害もしくは呼吸機能障害を有する患者、またはそのおそれのある患者以外の患者に対して実施している事例はないか

⑥ 発達および知能検査・人格検査・認知機能検査その他の心理検査は診療録に分析結果を記載していない事例はないか

(5) 画像診断の留意点

① 単純撮影の写真診断について、診療録に診断内容の記載があるか

② コンピューター断層撮影 (CT・MRI・他医撮影) について、診療録に診断内容の記載があるか

(出典:「保険診療における指導・監査」厚労省ホームページ資料より編著者が抜粋作成した)